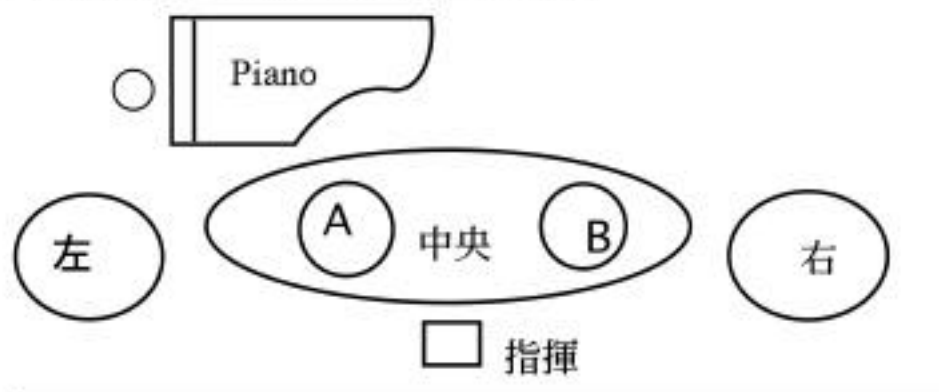


「紛れ野の家（うづ）」

—木村迪夫の詩による男女複数の声とピアノのために

4篇の詩「祖母のうた」「むら・幻・方法」「うたのわかれ」「夢」が交錯しながら同時進行する

ピアノ・パートはドビュッシーの「雪は踊っている」（「子供の領分」より）と中国古琴曲「搗衣」（出征した兵士の妻が砧を突きながら夫を偲ぶ）にもとづく



声は男女の別なく中央・右・左の3群にわかれ 中央群のなかにさらにA群とB群が含まれる
声の部分は5線1段に書かれ 自分の声にあわせて適当なオクターブに移す 2声部以上なら適宜配分する 男(女)は男声(女声)を主に 少数の女声(男声)ならその逆 男声だけ女声だけを避ける

日常的・非「声楽的」声は 語り・唱え・うたう

指揮記号 ○ 主拍 | 拍 ∪ 半拍 (拍の長さやテンポは変更自由)



ユニゾン(同時同音)は原則としてなし フレーズをだれかがはじめ 他の声は一瞬おくれてははじめ一瞬遅れて終わる その途中では ちがう声の音色が次々に表面に出るようにする 滝から落ちる水粒が次々に光をうけてきらめく あるいは綴れ織りや綿のイメージ

音程やリズムを揃えない 各自がいちばん美しいと思う音程やことばに対して適当と思われるリズムを取りながら 協力して全体をつくることによって複雑な肌理が創られる

高橋悠治

2004年8月20日

うづ
紛れ野の家

木村迪夫の詩による男女複数の声とピアノのために
2004年8月

高橋悠治

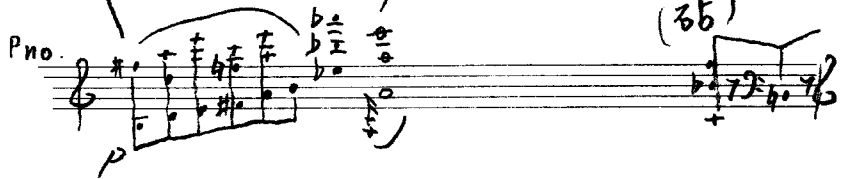
①
右] (語り)

男(女) しゅっせぐんつんは りくさのかどに
(出征軍人)

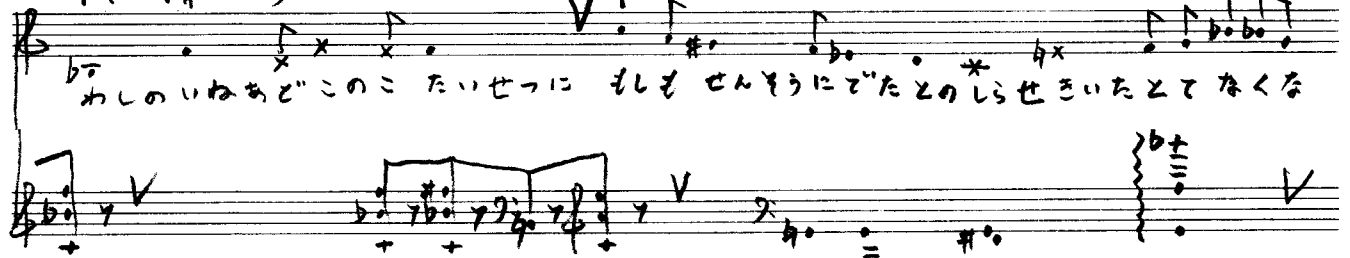
指揮 | (こはりのリズム)



ははつまよんで



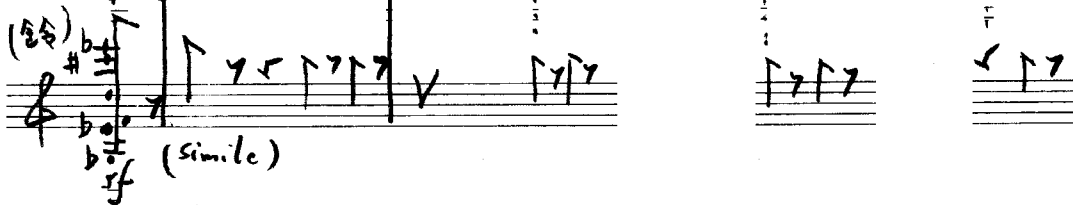
1 (表情なく)



かくり (仰詠聖歌)

左] 女(男)

ただてなま かしもあな たの はは じやもの



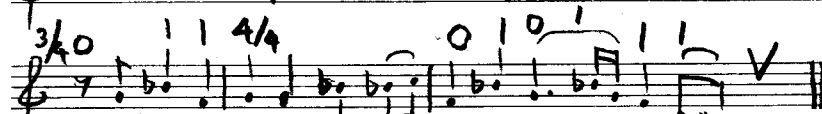
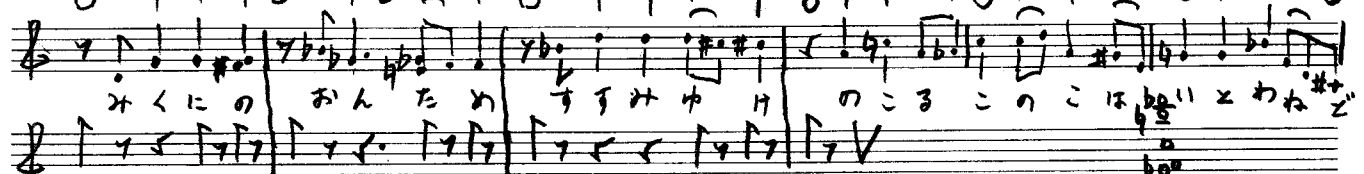
4/4

4.5/4

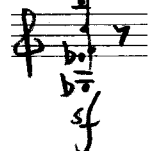
5/4

4/4

4.5/4



のこる はは つま みの ほ まれ



(遠ざかる)

Handwritten musical notation with lyrics:

左] | | | | |
 母の口から岸壁の母 おんこよくおしえてやらどれ おらが炬火運にあたりたのさ

右] |
 左] | | | | |
 うらどれ からんはるなうだすあ、知らなかつたもね

左] | | | | | 右] |
 おみねるん しわせあや シゲルんとみろおさんに 母のえあすあてあて うん

4 [中央後よりはいまり らんをんにひさあさ]

わたくしは めいじ四十四年四月十五日 まえの中川むら足ノ口ぶらくのうかに生まされてもらい
 一年二年とあたたかいお母さんのてでかわいがられ セツのとしまでそだてあげられましたが セツの
 ときにお母さんはなくなりました わたくしもくろうし 父もくろうして とてもお父さんだけではわ
 たくしたちをそだてあげることはできませんので まま母をもらい たにんのつめたいお母さんにそだ
 てられ ようやくがっこうにはいり あとお母さんにはこどもがたくさんうまれたから がっこうにい
 くときもこどもをおんぶしていったり てんきのよいときにはひまをいただき あめがふったときにはよ
 いなどといわれて さいほうやいろいろな本をもってがっこうにいて 先生から てんきがあがつて
 いそがしくなりましたから ひまをくださいといってしかられたり おまえはそんなにさいほうや本を
 たくさんもってきて べんきょうがいやになったのかといわれたりして ようやく六年生まではいって
 そつげようしました

最後のほうでしだいに弱く

5] に変わっていく

Handwritten musical notation with lyrics and performance markings:

5] (A) | | | (B) | | |
 マキノ村の 苦い 眠りに あるいは 眠りことのないうめ

全量
 刻の深さとともに 是れが年長の 志となつて 雲に降つた

あゝこれこれあ

中]1

村のなかにどの社の境内の桜の古木の空を地ののかり火の焚のうず逆しま

飛ぶはみ 舞いあかり 見果てぬやめのありあもとめて ふたたび舞ひあかり

sost. ped. _____

ちからつきて地の(は)にまに(は)すむ あざやかなく餘葉の始まり

sost. ped. _____

pp^{oo} ped. _____

[9] 右] 女(男)

しるきいほいのまににて もみじのようにて

あわせ おつちかたをアメリカとほんにアメリカてきいとの

Ped.

左] 女(男)

ふたりのこどもをくににあけ のこりしおとくは

ふたりのこどもをくににあけ のこりしおとくは

いまこそは さいのかわらでこいしつみ 打つ鳴らす 梵鐘とちんない

(=とちのリスム)

→(ped.) sf mf ^{tr} legato

村むとよ 鐘口でいひ 小のすきり 祠の屋根に吹きつもるとせとせとの (現時)

せめきあいに向って 打つ鳴らせ 腹の底から打つ鳴らせ せめて静け

sf sf mp

mf
音のうらに潜むこの村の行く末の交響の ふたたび

(しどいに移る)

III 右]

そしてままお母さんとお父さんと一生けんめいにはたらきつづけましたが

(語り)

女としては一番にきものです 何もかってもらわずにただ何年もはたらきつづけて

ようやく十九さいになりました

十九さいの年にままお母さんのあねの家によめにくれました

(語り)

きょうだいだからきものもかってくれなくてもよいといってくれたのです
そして一年二年とたち女の子がうまれました 春にうまれて冬の一月ころに
夫がげんえきでへいたいにとられいよいよ今日は家から出ていかねばならなくなった

12 A 群

中央]

それたての 五穀の透明さよ 総りの大豆の石更さよ

右] そのときわたくしはなんていったかわからない 夫が出ていったあとは

B 群

(過ぎたる秋はふらふらおとすれる希望の子供が)

ふと (他人) だよ

右] あっちへ行ってなき こっちへ行ってはなき ただ心さびしく

①

ほう外右祈りの石けえ 喘うな 中を 吹きこむ こうしの隙間から覗ける (不審子)

右]なくばかりです こんなことだったら一年半はどうしてくらす しかられながら

骨の箱の 累年の怨みの素顔を見せよ

そうしておしゅうとさんとはたらきつづけるのです 月日のたつのははやいもので

中央] 鐘 こしふり 鐘 ふり 鐘 あざし 燈明めかけて撒きちらす

そうしているうちようやく一年半もたってかへってきたとってよるこんで

③

血顔の戸への 遠げき <腐蝕させず風化させず 骨を壊されてこの村のゴトバ>とろる

右]二人ともせつせとはたらくことができました また秋になるとよび役だのこうび役だの)とってまたゆかねばならない 子供は三人となり いてくるとまたもしょうしゅう れいじょうのゆう あかいかみがきたとって心さびしくなり なくばかりです

[中央] と右] 両方終わるのを待つて)

13

右] 女(8) 死んだらまよわせっがら しんだらまよわせっがら

右] 女(8) こたえあずがて なしてまよわんなねんだよ じゅみようだべな

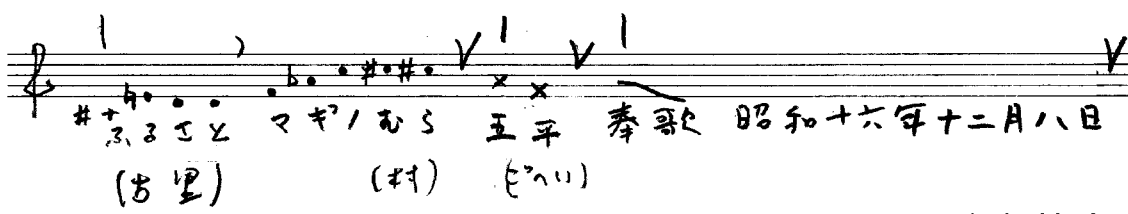
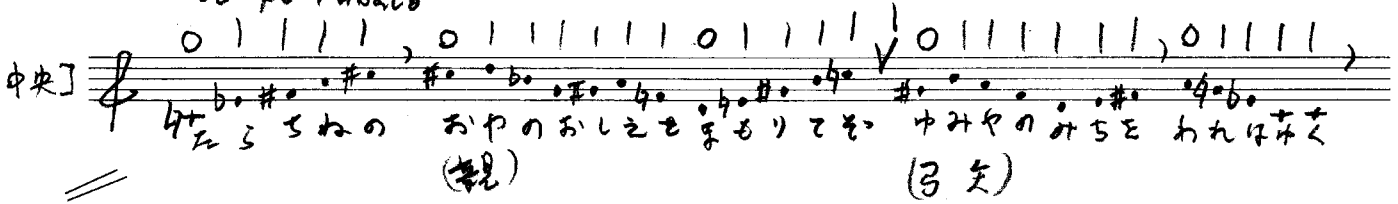
死んだらまよわせながら おれば死なしたらまよわせながら



14

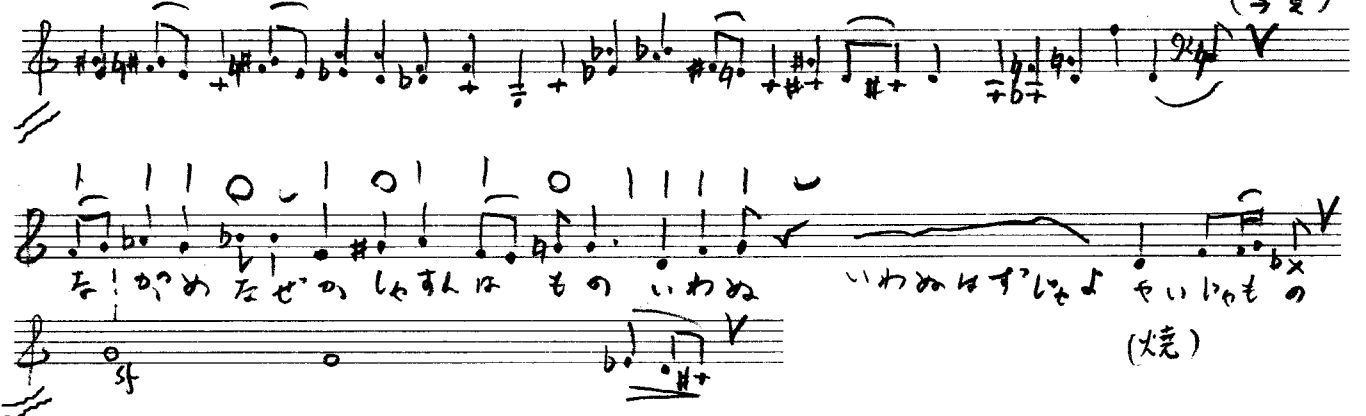
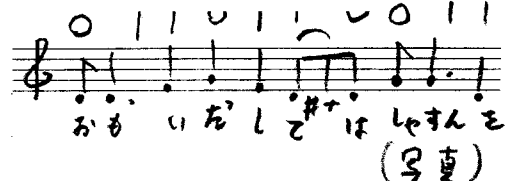
tempo rubato

中央]

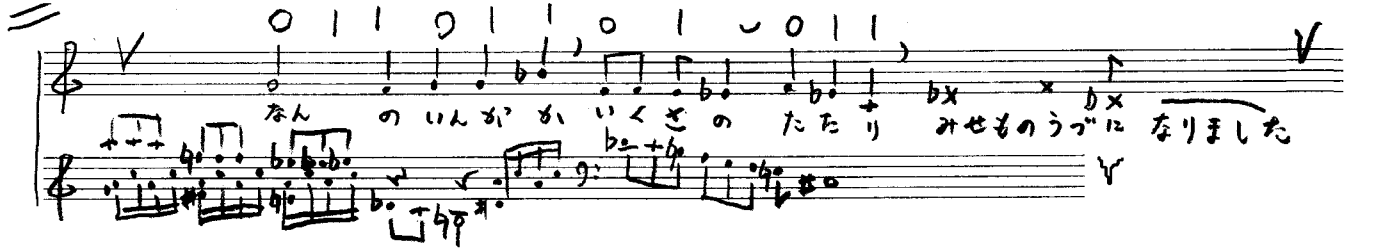
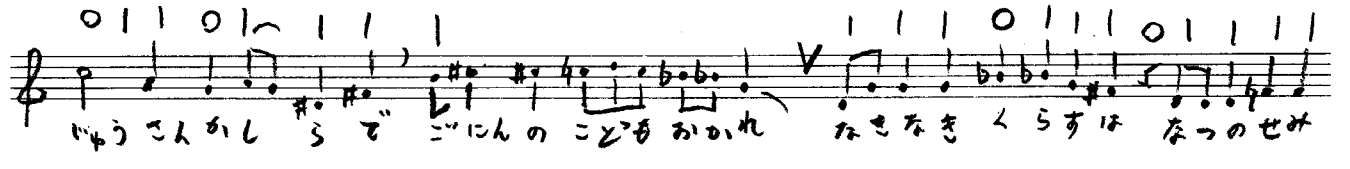


15

右]女(男)



左]女(男)



14

右]全音

ようやくかへってきたといったら

左]全音 またしょうしゅうれいじょうあかがみがきて

中央]③

またしょうしゅう



③

中央]全音

中央]④

中央]全音

れいじょうがきたといって さいごは子供五人です すえの子はかぞえの二つであった 子供が五人め の時に



中央] 全量

まえにはおしゅうとさん二人でまいにちまいにちわるくちばかりで

右] よるはとこの中で目のあくかぎりぐちばかりいわれ



中央] 全量

いくらねむっていたものでもすぐとなりのへやなものですから

② すぐ目をさまし みのつまるようでした



左] いくらわたくしが何もわからなくて出来ないからでもあるが

① なんとつらいことでやうと思ひ



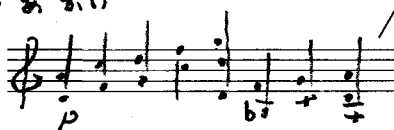
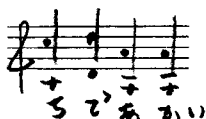
左]

よめにきてからただのいちどもわらったことはありません



中央] 全量

ただあさはくらいうちゆうがたもくらくなるまではたらくばかりでした



①

なくとるあんず うらでなく

118

mp

③ mf

③

久蔵 藤五郎 寒気五臓をはしる 夜明け 彼らもまた 消え去ることのない

中央]全員

中央]全員

骨の声を抱いて むすんで 又キノ村へ

119 右] ♀(男) この畜生やろ

左] ♂(女) おしめとり替えてやってるに 畜生やろうとはあんまえな

p

右] 口をあげろ

左] 口あげねごんたら、まま(飯) かなえべな

右] 口などあげね

左] ままかねごんたら死んでしまうべな

右] ままなかかねたてええ

右] ままかねたて生きでみせる。おまえだの世話などならねたて、生きでみせる。

左] おまえだの世話などならねなて、げんに世話なて生きでっどれ

右] けっして死なねえぞ しなねえぞ



中央]

① 群 さま (飯) だから 口をおおきくあげろ

左] ② ほだえ口あげろ口あげろと言うたて あげらんえべな



① すこしはおどなく おらどシゲ子の言うごときいで おどなくなたてえべな

② おどなくなのならね きかねくなる



① まま (飯) かせてもらたら 忘れねでごっつおさまと言わんなねべな

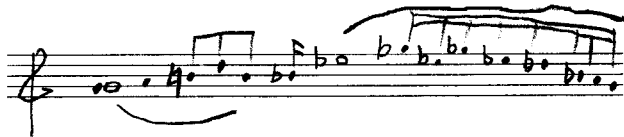
② わすれだはあ



左] 気悪がったな

右] 気なしてだ

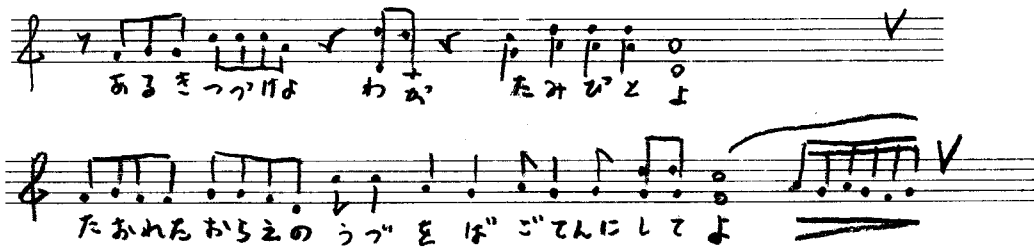
左] こだえあずかてもらて



右] なにも心配すっごどなえがらなれ ばばちゃん

左] んだがあ





22

左] こんなことをかいてほとけさまに申しわけございませませんが ここまでようやくくらしただかと思えばあげくのはてに夫にしにわかれ ないてばかりいたんでは子供をそだて上げることはできないことです 冬になってお正月になるとじっかにとまりにいつてはげごや わらじ になわなどつくり上げてそれをりようするのです 冬がおわり春になると田やはたけにでるときはぶらくでも一番はやくでてはたらく牛で田をたがやしたりするのです 牛はひとのようにじゆうにならないあばれてはふりまわされたこともあります

まあ いろいろなことばかり そうしてようやく五人の子供をそだて上げました